

子どもの遊び 体験通し考察

坂井・竹田

県内外学生がフォーラム

子どもの遊び場や遊び方について考える「第6回子ども遊び場フォーラム」(福井新聞社後援)は22、24日、坂井市竹田農山村交流センターちくちくぼんぼんで開かれた。県内外の大学生ら34人が子どもを対象にした

活動について報告し、体験を通じて指導方法や子どもに危険な状況などを確かめた。

県内で自然体験プログラムに取り組むNPO法人「森のほづかごっこ」(福井市)が開いた。22日は山登りやアクセサ



火おこしを体験し、子どもにとって危険な状況や注意点を学ぶ学生ら=23日、坂井市のちくちくぼんぼん

リー作りを行った。23日は5グループがキャンプなどの活動を報告した後、竹とんぼ作り、

火おこし、山野の散策に分かれて体験した。

火おこしでは着火時など想定される危険性を検証。軍手を使うなど子どもが安全に楽しむ方法を学んだ。竹とんぼ作りではナイフの使い方など安全への配慮を確認した。

大島祐一さん(愛知教育大4年)は「大人が指導して子どもにナイフや火を使わせ、危険性を認識させたい」と話していた。(増田智佳子)